

2019年3月10日(日)メッセージアウトライン「人生を変える告白——イエスは主です」

聖書箇所：ローマ人への手紙10：1～17

タイトル：「人生を変える告白——イエスは主です」

テーマ：パウロは人が救われる方法はただ恵みと信仰によると断言しています。信仰の内容は9節のとおりです。イエスを主と信じ告白し、その名を呼び求める——このお方に信頼するなら救われると言い切っているのです。ユダヤ人でも異邦人でも、救いはただ恵みと信仰によるのです。

一方でこのお方を信じるためには、信仰のことばを宣べ伝えてくれる人が必要だと言います。ここでパウロの主張が明らかになります。真の信仰は信じた者を宣教へと駆り立てます。イエスを主と告白した者の責務は宣教の働きを担うことです。なぜ、神の選びの民と自負していたユダヤ人が、この働きを担うことが出来なかったのか、イエスを主と信じる事が出来なかったのか、それを考えるとき、今、イエスを主と信じている私たちがどうしてもなすべきことが見えてきます。それを探ってみましょう。

<はじめに>

- 今日は、
1. パウロの時代のユダヤ人がイエス様に辿り着けなかった理由
 2. パウロが伝える「信仰による義」
 3. 信仰による義を得た者の責務
 4. ユダヤ人は神から捨てられたの？
 5. 結論 という順にお話をさせていただきます。

1. パウロの時代のユダヤ人がイエス様に辿り着けなかった理由

- ①「彼らは熱心である。しかしその熱心さは知識に基づくものではない
- ②自らの義を建てようとして神の義に従わなかった

2. パウロが伝える信仰による義

- ①パウロは律法を守ることによっては得られない信仰による義を教えている

②神の義、信仰による義

*神の義はどこにあるのか——あなたの近くにある。天に上ったり、地下に下ったりしなくても、あちこち探しまわらなくてもあなたのすぐそばにある。

*神が用意してくださった御子イエスを主として信じ受け取り、「イエスは主です」と告白するだけ。

③「イエスは主です」という告白が意味するもの

3. 信仰による義を得た者の責務

①信じたことのない方を呼び求めることは出来ない

②聞いたことのない方を呼び求めることは出来ない

③宣べ伝える人がいなくては聞くことが出来ない。

④遣わされなくては宣べ伝えることが出来ない。ここに宣教の必要性が出てくる。

* 私たちもイエス・キリストの福音を聞いてイエス様を信じました。

* ところがユダヤ人は誤解をしていたのです。

4. ユダヤ人は神から見捨てられたのか？

5. 結論

①私たちが受けた神の恵みと憐れみの大きさ

②宣べ伝える相手

人を救うのは神のわざ、福音を伝えるのは神に導かれつつ果たす人間の責務です。

私たちの人生が、「イエスは主です」と告白したとおり、イエスを主として徹底的にそのお導きにお従いする人生となりますように。